

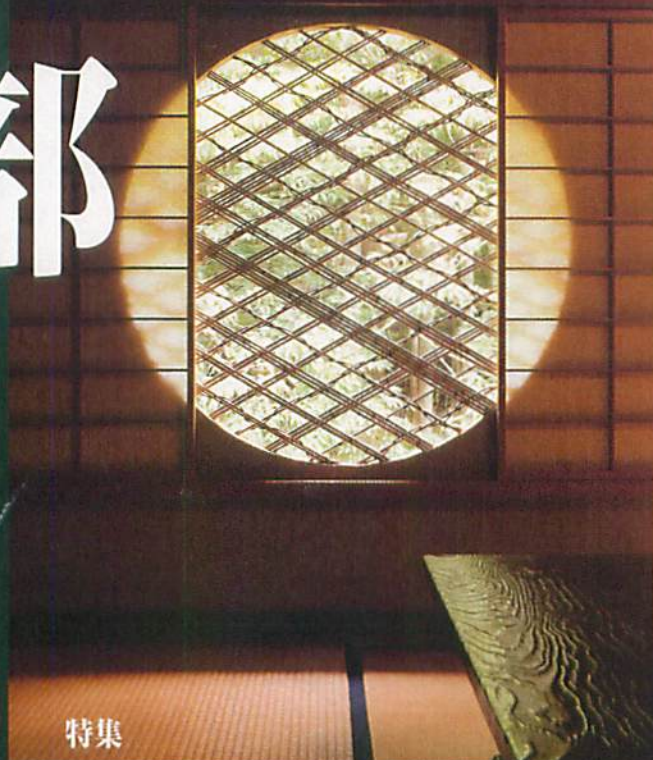
# 京都

講談社MOOK  
07年秋号

# 匠



# 倶楽部

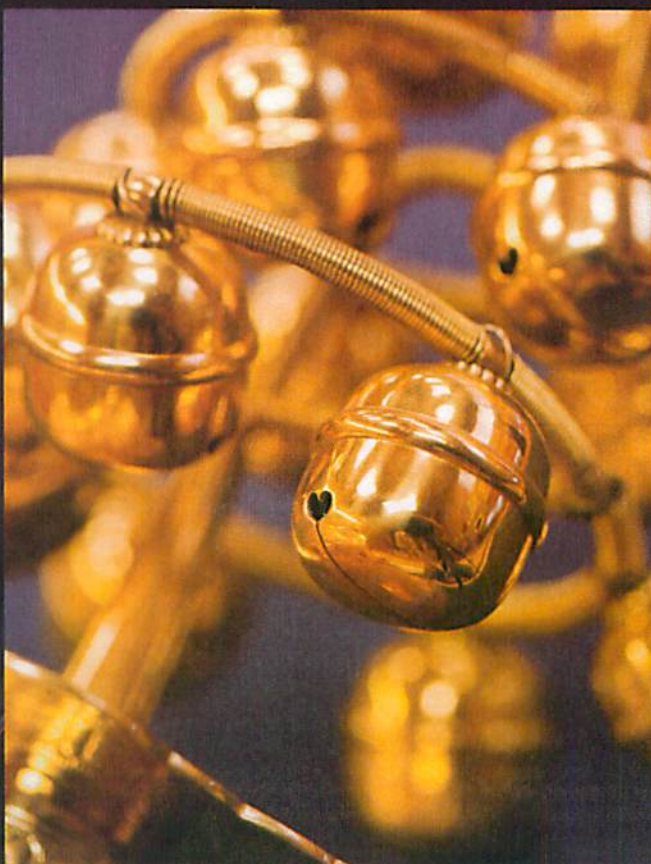


特集

## 雅なるもの



紅葉の美  
匠の技  
重森三玲の  
庭を歩く





# 日吉屋

ひよしや

和傘

■和傘

和傘はもともと高貴な人々の間で日傘として使用されていたが、江戸中期になると一般庶民の雨具として広く普及した。切る、割る、貼る、繋ぐ、塗るといった高度な伝統技術を伝え、野宮前にはずるん傘社、花街料理店などで見かける和傘にも優美な仕上げが施されている。

## 朱

色、紅白、緑白。天気の良い日、人形寺として知られる宝鏡寺の境内には目にも鮮やかな和傘の花が咲く。直径約15mから3mというこの大輪の花を咲かせるのは、門前で百数十年続く京都で唯一の和傘をつくる日吉屋である。



五

六

■四 五代目当主・西堀耕太郎さんが取り組んでいるのは茶道家元御用達の五尺の本式野点傘。■傘の骨に糊を塗り和紙を貼ってヘラでおさえていく。■工房ではさまざまな和傘の製作や修復を行っている。■ミニ和傘の色柄は6種類。当日持ち帰ることができる。■代々使われてきたハケやヘラなどの道具類。



京和傘 日吉屋

☎075-441-6644  
京都市上京区寺之内通堀川東入ル百々町 546 MAP ㉟b-1  
◎市バス「堀川寺ノ内」からすぐ  
◎10:00～18:00  
◎月曜、年末年始  
料金 ミニ和傘作り体験・一般4200円。学割、5名以上の団体割引あり。工房見学525円(木版画作家による和傘絵ハガキ付き)  
人数 5名～20名(大人数については要相談)  
所要時間 1時間～1時間半  
要予約



四



三

宝鏡寺の境内を望める2階の工房では、時期によるが、野点傘、歌舞伎の舞傘、祇園祭の傘に番傘、蛇の目傘、和日傘などの製作工程を見学することができ。体験できるのは直径28cmのミニ和傘。用意された本格的な竹の骨組みに好きな和紙を貼って完成させるオリジナルの和傘は、和の風情たっぷりです。愛らしい。

「裏千家や表千家の茶道家元のお膝元であるこの地に店を開いた二代目の頃から、宝鏡寺境内に傘を干すことを許されたと聞いています。家元御用達の五尺の本式野点傘などは、陽にすかして骨組みの美しさと和紙の張り具合などを確認したりするので、天日干しも大事な作業のひとつ」と、五代目である西堀耕太郎さん。奥様の実家を継ぐ形で公務員から和傘職人になったという経歴の持ち主で、傘づくりの技は義母に教えをうたという。「伝統を守りつつ現代の暮らしを楽しめるものを」と、和傘の技術を生かした照明や、他業種とのコラボレーションによる新商品の開発にも余念がない。